

サポート

No. 167

令和2年2月17日発行

秋田県教育庁特別支援教育課 指導班

令和元年度特別支援学校実践的職業教育推進事業 秋田県特別支援学校職業教育フェア（県北地区）

秋田県特別支援学校職業教育フェアは、県内の企業関係者等に特別支援学校の生徒や職業教育に対する理解の促進を図ることを目的として、平成24年度より開催しています。今年度は10月に県央地区、11月に県南地区で開催しました。最後に開催した県北地区の様子を紹介します。

令和2年2月3日（月）、大館市中央公民館を会場に、秋田県特別支援学校職業教育フェア（県北地区）を開催しました。今年度は、北秋田地域振興局主催の「大館・北秋田地区企業説明会」に参加した25社の事業所の方が来場し、生徒の日頃の頑張りを見ていただきました。

作業学習実践交流会では、ポスターや実物を使って、各校の作業学習製品の特長や取組について発表し合いました。どの学校の生徒も、相手に聞こえるような大きな声で話し、製品のこともよく伝わるように、試食を用意したり見せ方を工夫したりしながら情報交換しました。それぞれの発表の後には、よかったと思うポスターに「Good シール」を張ったり、付せんに書いた感想を伝えたりするなど、とても活発な実践交流会になりました。

秋田県特別支援学校技能競技会「錬成会」では、ビルクリーニング、喫茶サービス、縫製の3競技を実施し、日頃練習し磨いた技術を披露しました。多くの企業の方や保護者が見守る中、喫茶サービス競技では、笑顔や声の大きさに気を付けてお客様に飲み物を給仕したり、ビルクリーニング競技や縫製競技では、用具を正しく扱い、出来栄を意識しながら臨んだりする姿が見られました。また、喫茶サービス競技では、競技後に審査員の方からより上達するポイントを教えていただき、その解決方法を生徒が考え、改めて実戦形式で行う「エキシビジョン」を実施し、更なる技術の向上につなげることができました。

今後も作業学習を通して技術を磨き、特別支援学校同士の生徒の交流の中で、互いに刺激し合いながら切磋琢磨することを期待するとともに、地域の事業所の方への理解啓発に努めていきたいと思えます。
（県北地区職業教育フェア担当校：秋田県立比内支援学校 教諭 畠山 純）



【作業学習実践交流会】



【ビルクリーニング競技】



【喫茶サービス競技】



【縫製競技】

Out of Many, One People

(ジャマイカのモットー:多数から、一つの人民に)



鳴門教育大学大学院学校教育研究科
グローバル教育コース 国際教育協力
三浦 聡子

(秋田きらり支援学校所属)

「ジャマイカ」と検索すると、「秋田県とほぼ同じ大きさの島国」と出てきます。高級コーヒー豆で有名なブルーマウンテンは、鳥海山とほぼ同じ高さです。オリンピックの陸上競技100m金メダリスト、ウサイン・ボルトのファンの方もいらっしゃるのではないでしょうか。

私は昨年の4月から自己啓発休業を取得し、大学院で学んでいます。そして、本学と独立行政法人国際協力機構(JICA)との連携案件で、9月下旬から12月上旬までジャマイカの小学校算数の支援に携わりました。ジャマイカでは高学年でも指を折ったり、ノートの端に丸や棒を書いたりして数える「カウンティング」を用いる児童が一定数おり、日本で低学年の時に指導する「10のまとまりをつくる」という考えが定着していないということでした。派遣が決まってからは、短い期間で効果的な指導を行うために、すでに派遣になっている隊員からテレビ会議、メールなどで情報を得て、それをもとにコースの留学生・日本人学生を児童役にして模擬授業を行ったり、算数の指導で用いる英語表現について調べたりして準備を進めました。留学生との模擬授業の体験を通して、決して日本の算数指導が世界の主流ではなく、同じ計算について教えるのも国によって様々な方法があること、教師は自分が習ったように児童に教えるのだということに気付かされました。

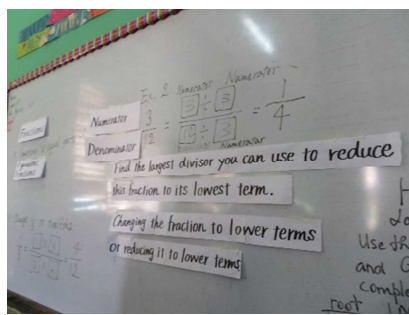
ジャマイカに行って最初の1か月は教師向けの研修に携わりました。減減法のワークショップを用意していたのですが、ジャマイカの教育省の担当者が私の経歴を見て「あなたの経験をシェアしてほしい」という要望があり「日本の障害児教育、自閉症児の指導」に変えて行いました。ジャマイカは今まさに、自閉症児を普通学級で指導しようとしているところらしく、参加された先生方は熱心に話を聞いていました。(減減法は他の隊員の用意していた加減法のワークショップと一緒に紹介してもらいました。)

その後、首都キングストン市内にあるアルファ プライマリー スクールで6年生に配属となり、カリキュレーションタイムという計算力向上のために設定している時間の中で指導を行いました。6年生でも九九を暗記していない児童が多く、わり算や分数の通分・約分など計算の途中にかけ算の知識を必要とする問題を苦手としていました。そこで、6年生4つのクラスそれぞれでわり算、分数の基本を復習する授業を行いました。さらに、児童に授業の確認のプリントに取り組みせ、その丸付けをした後で担任と情報共有するようにし、継続して指導してもらうようにしました。

今回、教えることを通して、遠い国の子どもたちや先生たちと信頼関係を築けたことで、教師という仕事の魅力を再発見できました。このような機会を与えてくださった、秋田県教育委員会に感謝いたします。



【指を使いながら計算する様子】



【分数を指導した時の板書】



【小グループでの指導の様子】

おめでとうございます

優良PTA文部科学大臣表彰

文部科学省では毎年、PTA活動に優秀な実績を上げているPTAの表彰を行っています。今年度は秋田県立大曲支援学校せんぼく校のPTAが受賞されました。表彰式は令和元年11月に東京で行われ、その報告に教育庁を訪れました。



【教育長への報告】



【各課への報告】

第38回肢体不自由児・者の美術展/デジタル写真展

社会福祉法人日本肢体不自由児協会主催の「第38回(令和元年度)『肢体不自由児・者の美術展/デジタル写真展』」において、秋田きらり支援学校中学部3年の保坂 柊さんが「毎日新聞社会事業団賞」を受賞しました。

また、保坂さんは、令和元年12月12日(木)に常陸宮殿下御臨席のもと東京池袋の東京芸術劇場で行われた表彰式に参加しました。

その他の受賞者を紹介します。

〔優秀賞 絵画〕

秋田県立秋田きらり支援学校中学部3年 小川 翔さん

〔佳作賞 絵画〕

秋田県立秋田きらり支援学校高等部3年 牛口 颯都さん

〔努力賞 書〕

秋田県立秋田きらり支援学校高等部3年 佐藤 優弥さん



【保坂さんと作品「自画像」】

令和元年度文部科学大臣教育者表彰

文部科学省では学校教育に関し、特に顕著な功績のあった方を表彰しています。このたび、秋田県立ゆり支援学校の田口睦子校長が、令和元年度文部科学大臣教育者表彰を受賞されました。



【特別支援教育課への報告】



【田口校長と
特別支援教育課長】